

登録コード:MH622100 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	組織学【理作20M以降】 Human Histology		
担当教員	寺田 信生		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	検査技術科学専攻、理学療法科学専攻、作業療法科学専攻 1年 前期 火曜・5時限		
単位数、講義室	2単位	保健学科311講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。		人体構造からなる人間の営みの理解から、ヒトの尊厳について考えながら患者に接することができるようにする。
	MH25カリ・保健・理学、MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・作業		
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		人体構造を分類しながら説明できるようにし、これらが運動しての人体を理解して病態への理解につなげていくことができる。
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		人体構造の実体に基づいて、新事実も理解しながら科学的に対応できる心構えを持って医療が行えるようにする。
	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	人間のからだを実体に基づいて医学・医療を的確に行うためには、まずは人体の構造を正確に理解する必要があります。この人体構造は、器官系の視点から解剖した分類をもとに理解すると基本的な機能がわかってきます。そこで本授業では、この器官系を構成する細胞と組織を顕微鏡でみることによって理解し、さらに肉眼解剖としての臓器の位置や名称とつなげて、ミクロからマクロ（前期の「系統解剖学」授業と関連付けながら）の機能と合わせて説明できることを目的とします。 本授業は、1年時に学ぶ「生理学」「解剖学」「生化学」などと合わせて人体のしくみを理解し、さらに病態を学んでいくための重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医学における人体解剖知識の基礎から病気の診断と治療の臨床にわたって、医師としての実務経験を活かして講義と実習を行います。 本授業は、人体の理解を通して男女の個人としての人権の尊厳についても学ぶ、男女共同参画に関する内容を含んでいます。		
授業計画	第1回（4月14日）解剖組織学の概要、細胞1（細胞膜、核）（総論） 第2回（4月21日）細胞2（細胞小器官、細胞骨格、細胞分裂）（総論） 第3回（4月28日）上皮組織（総論） 第4回（5月12日）結合組織1（構成細胞と成分）（総論） 第5回（5月19日）結合組織2（骨、軟骨）（総論） 第6回（5月26日）筋組織（総論） 第7回（6月2日）神経組織1（構成細胞）（総論） 第8回（6月9日）前半のまとめ、中間試験 第9回（6月16日）外皮系（各論） 第10回（6月23日）血液（各論） 第11回（6月30日）消化器系（各論） 第12回（7月7日）泌尿・生殖器系（各論） 第13回（7月14日）呼吸器系・内分泌系（各論） 第14回（7月21日）脈管系・免疫系（各論） 第15回（7月28日）神経系（脊髄、脳）（各論）、授業アンケートの実施 第16回（8月4日）期末試験 上記の予定は、「系統解剖学」（肉眼解剖を中心）の授業の進み具合に合わせて、適宜変更することもあります。		
授業の進め方	本授業は、テキストに沿って板書による講義をします。自らが解剖図を描きながら説明をできるように、解剖の位置と名称、そしてその機能をひとつずつ理解できるように進めます。 その理解を行えているかを確認するために、名称を入れながら的確に人体構造を図示できるかについての質問を授業時間中に頻回に行います。		
テキスト、教材、参考書	テキスト カラー人体解剖学（西村書店）；系統解剖学の授業でも利用します。 アトラス diFiore人体組織図譜（南江堂） 肉眼解剖と顕微解剖（組織学）の関連を理解するために、この2冊とも使用します。		
成績評価の方法	中間試験（第8回）と期末試験（第16回）に行う、筆記試験によって成績を評価します。総合的評価の配分は、中間試験40%、期末試験60%とし、総計の60%以上の得点を合格とします。		

成績評価の方法	中間試験では第1～7回の、期末試験では第9～15回の内容を主体とします。 試験では、人体構造の名称を細胞－組織－器官系として分類でき、それらを機能と共に理解をしているかを、自分で図示できるかも含めて確認する内容を実施します。試験の結果については、実施後にフィードバックします。
成績評価の基準	中間試験と期末試験の成績評価判定基準は下記のとおりです。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 なお、これらの採点の基準は、達成目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している」と判定します。
事前事後学習の内容	[事前学習について] 毎回、授業の終わりに、次回までに調べてくる内容について説明を行います。 [事後学習について] 毎回、授業のはじめに、前回の授業の要点について質問を行いますので、自分の言葉で端的に分かりやすく説明できるように準備して授業に臨んでください。 本授業の単位修得には、90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間60時間（4時間×15回）＝90時間 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	肉眼解剖の理解に基づき、顕微鏡レベルで人体構造を理解するのが「組織学」です。細胞が組織をつくり、さらに器官から個体（人体）へと構成されてヒトが機能するというメカニズムを正確に説明できることが、正しい医療を行う原点となりますので、正確に理解をしましょう。 質問への対応：寺田 信生 nobuot@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：対応時間については、上記メールアドレスに確認してください。 保健学科南校舎3階 寺田研究室